



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G1512号)

平成27年10月28日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

平成27年漁期ズワイガニ漁況の見通しについて

調査船「たじま」の調査結果などから見た今期のズワイガニ漁況の見通しについて報告します。

1. 今漁期の見通し

- ①解禁直後(但馬沖漁場):主に解禁直後に利用される但馬沖漁場のズワイガニ漁獲量は、オスがに(硬がに)、メスがにともに前年を下回るでしょう。メスがにの漁場は水深 235-245m を中心に形成されるでしょう(西部で若干深い傾向)。オスがにには中型サイズが中心となるでしょう。
- ②漁期全般(浜田沖～丹後沖漁場):本県沖底船の主漁場となる浜田沖～丹後沖漁場のズワイガニ漁獲量は、オスがにには前年並み、メスガニは前年をやや下回るでしょう。

2. 根拠となった情報

① 但馬沖漁場

調査船「たじま」によるトロール漁期前調査(調査月:10月)

調査船「たじま」により、平成27年10月8～14日に、香住沖の水深200～350mおよび津居山沖・浜坂沖の水深235～245mに設けた計14点(図1)でトロール網(袖先間隔28m、3ノット、30分曳き)による試験操業を実施しました。

- ・オスがに(硬がに):カニ漁解禁前の操業自粛水深帯を中心に水深225～300mの範囲で入網がありました(表1、図2)。全水深帯(200～350m)での1曳網当たり入網数は2.7匹で、前年(4.2匹)を下回りましたが、過去5年平均(2.4匹)並みでした(表2、図3)。サイズは甲幅12cm前後の中型サイズが主体でした(図4)
- ・メスがに(クロコ):水深235～245mで多く入網し、分布のピークは香住・津居山沖では水深240～243m付近、浜坂沖では水深245m付近にありました(表1、図2)。メスがに漁場水深帯(235～250m)での1曳網当たり入網数は53.6匹で、前年(75.4匹)を下回りましたが、過去5年平均(57.4匹)並みでした(表2、図3)。
- ・ミズがに:水深335m付近を中心に300m以深および225mで、ミズがに(脱皮してミズがにとなるフタカワ、モモ、ブラ、イボ含む)が入網しました。(表1、図2)全水深帯での1曳網当たり入網数は14.7匹で、前年(8.7匹)を上回り、過去5年平均(15.8匹)並みでした。(表2、図3)

② 浜田沖～丹後沖漁場

水研センター調査(調査月:5-6月) (研)水産総合研究センター日本海区水産研究所は、現在A海域(富山県以西)における平成27年漁期当初の銘柄別資源量について、オスがにには前年並み、メスがにには前年を下回る(ただし隠岐周辺海域では前年を上回る)、ミズがにには前年を上回ると推定しています(図5、6)。

3. その他の情報(但馬沖)

- ・但馬沖の335m付近ではミズがにと甲幅3～9cmの若齢がにのみが多数入網しました。これらは早いものは平成28年漁期から漁獲対象となります。このような海域ではズワイ漁期開始までは改良漁具の活用を、開始後も操業の自粛を心掛けて下さい。
 - ・アカコの入網匹数も多く、生き残りが良ければ来漁期にメスがにの増加が期待できます。
 - ・アカガレイは香住沖水深275mでまとまった入網が見られました。
 - ・エチゼンクラゲは入網しませんでした。サルパ類(原索動物;ホヤの仲間)の網掛かりが全域で目立ちました。
- 以上、操業の参考にして下さい。

お問い合わせ先:兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター (担当:大谷)

TEL: 0796-36-0395 FAX: 0796-36-3684

E-mail: nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ: <http://hyogo-suigi.jp/tajima/>

資料①
(但馬沖)

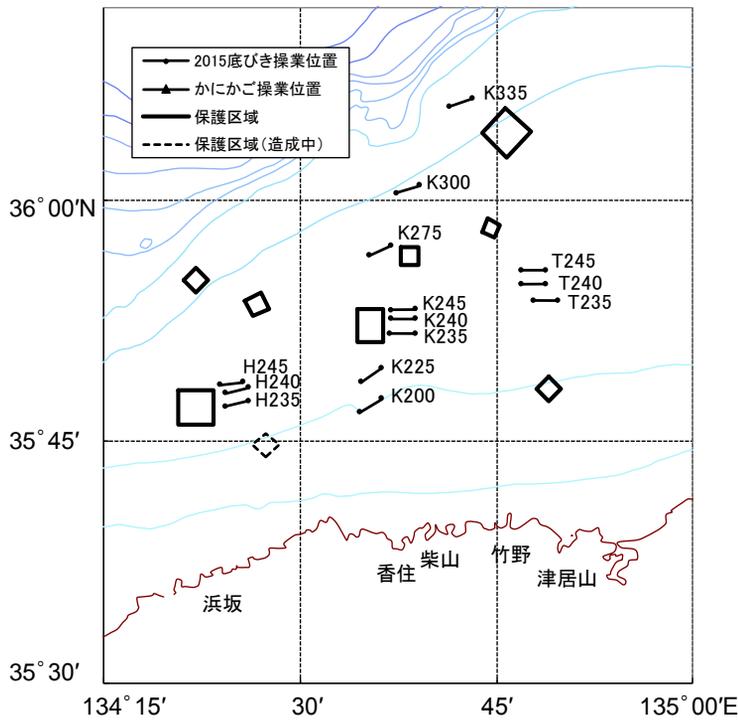


図1 但馬沖調査海域図

表1 操業点別のズワイガニ等入網状況

漁場	年月日	操業点	曳網水深 (m)	ズワイガニ 入網数(匹/網)				アカガレイ 入網重量 (kg/網)	海底 水温*4 (°C)
				オス*1	ミス*2	アコ	クロ*3		
津居山・ 竹野沖	2015/10/14	T245	245→245	2	2	62	1	0.4	2.5
	"	T240	241→240	0	1	26	81	0.1	2.7
	"	T235	236→235	2	0	4	53	0.8	2.8
香住沖	2015/10/9	K335	340→332	0	51	8	0	7.6	1.1
	"	K300	299→297	5	11	22	0	22.7	1.3
	"	K275	273→274	1	6	8	0	153.5	1.7
	2015/10/8	K245	249→244	4	1	25	3	7.3	2.3
	"	K240	246→240	0	1	22	38	3.0	2.3
	"	K235	239→231	0	3	149	22	2.0	2.8
浜坂沖	2015/10/13	H245	246→243	8	0	5	125	10.8	1.9
	"	H240	241→240	7	1	8	106	31.2	2.2
	"	H235	236→235	4	0	27	53	21.0	2.2

表2 曳網当たり入網匹数の前年および過去5年平均との比較

水深帯	漁場	調査年	ズワイガニ 入網数(匹/網)				アカガレイ 入網重量 (kg/網)	平均海底 底水温*4 (°C)
			オス*1	ミス*2	アコ	クロ*3		
全水深帯 (200-350m平均)	但馬沖 (平均)	過去5年平均	2.4	15.8	13.9	10.8	8.8	1.7
		2014年	4.2	8.7	17.0	12.7	2.4	1.6
		2015年	2.7	14.7	28.6	8.9	37.7	2.3
メス漁場水深帯 (235-250m平均*5)	但馬沖 (平均)	過去5年平均	5.8	2.5	20.8	57.4	16.6	1.8
		2014年	9.4	0.9	19.9	75.4	5.4	2.0
		2015年	3.0	1.0	36.4	53.6	8.5	2.4

*1 硬がに(甲幅9cm以上・硬甲・ハサミ大) *2 11齢(二皮)と硬がに以外の12・13齢

*3 漁期中にクロコになる個体 *4 漁網監視装置より *5 但馬沖ではメスはこの水深帯に集中分布。

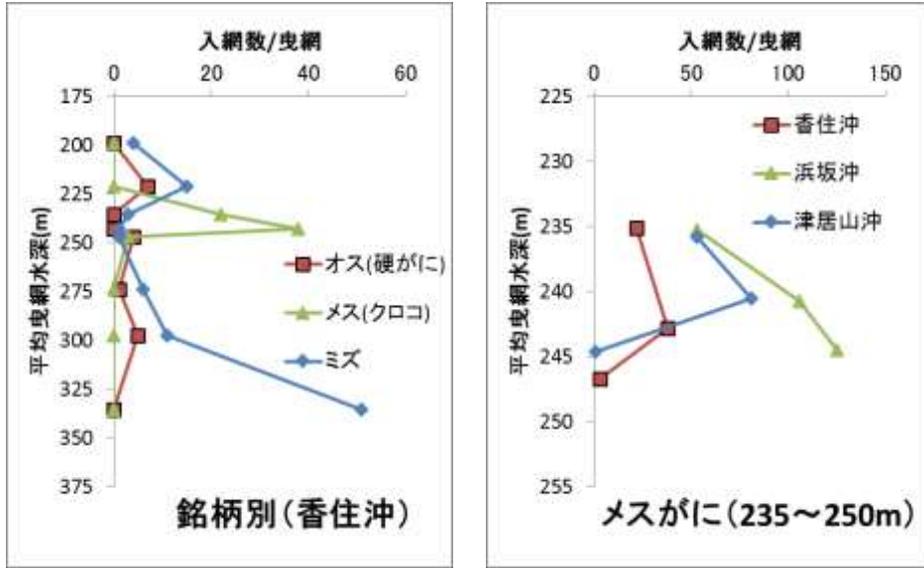


図2 曳網水深と入網数(但馬沖)

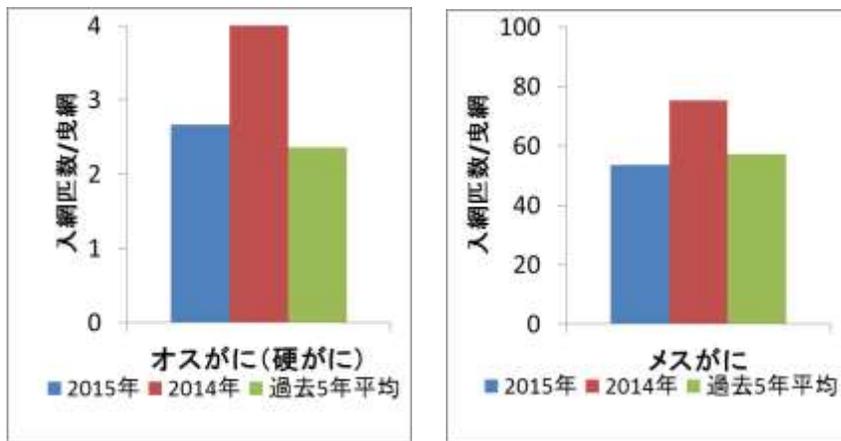


図3 平均入網匹数の過去との比較(但馬沖)
(オスがに:全水深帯平均、メスがに:235-250m平均)

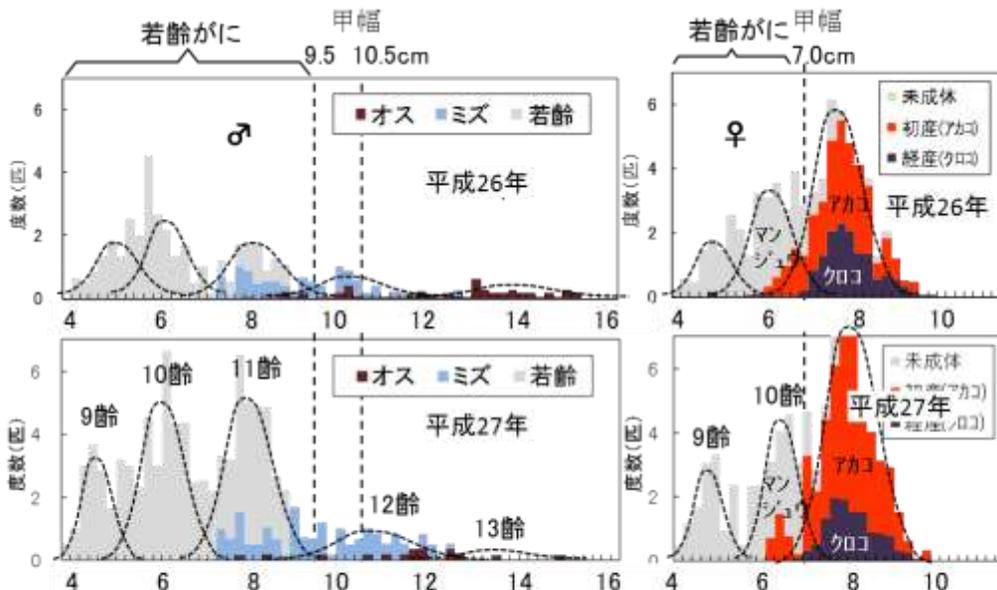


図4 トロール網による近年のズワイガニ甲幅組成(平成26・27年)
(10月、但馬沖水深200-350m、1曳網当たり)

資料②
(日本海西部海域)

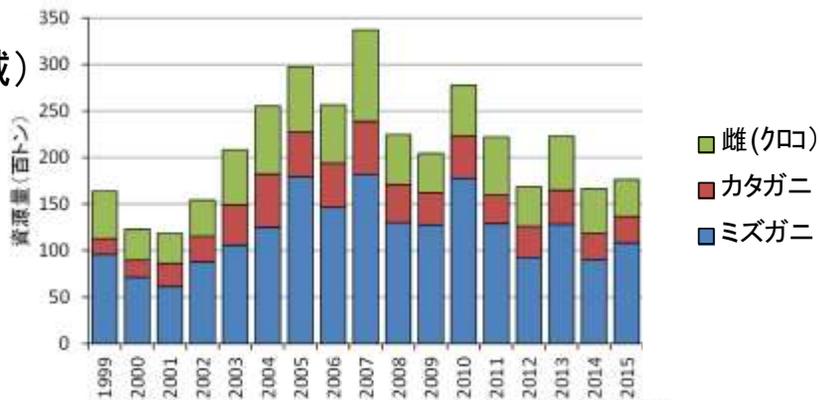


図5 漁期開始時点における推定資源量
(日本海西部海域)

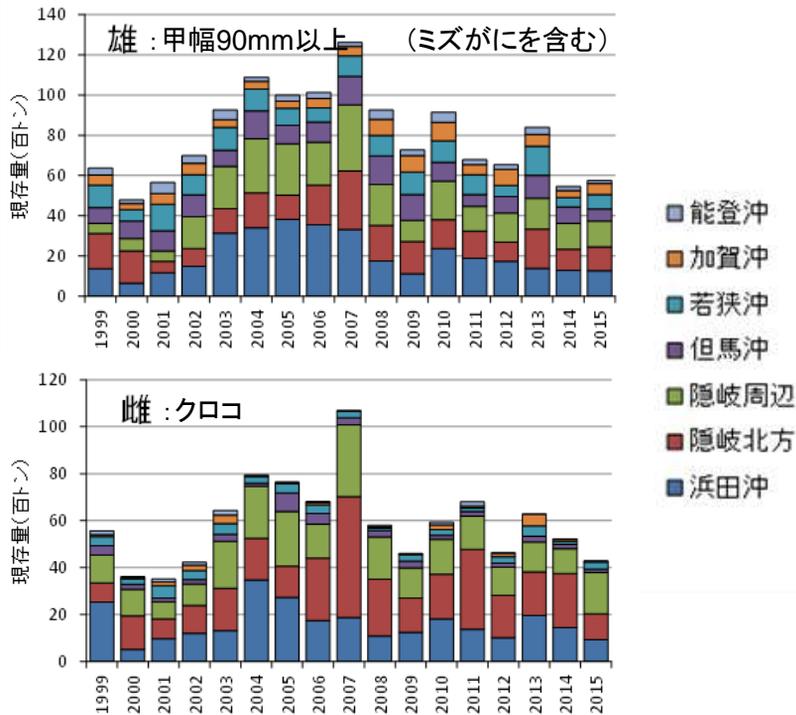


図6 小海区別 推定漁獲対象資源量

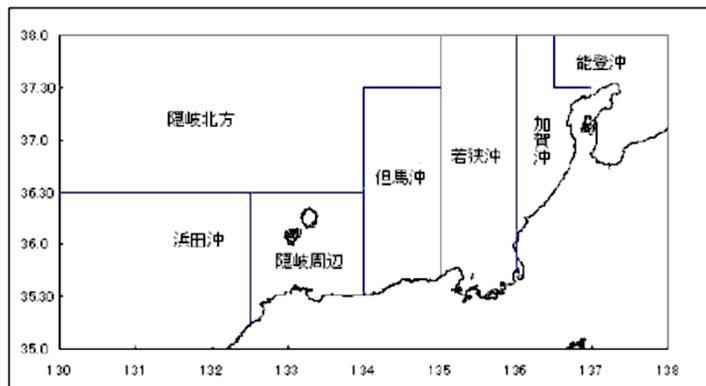


図7 小海区分